

キラリ☆ 中野のチカラ

中野立志館高等学校 機械部



さまざまな経験から 自分の将来を描く

昨年度の全国エコカーレース（ジュニアクラス）などで上位入賞を果たし、今年度は第6回関東甲信越高校生溶接コンクールで、部長の小林大真さんが同部初となる最優秀賞に輝くなど、さまざまな分野で活躍中の機械部の皆さんにお話を聞きました。

○機械部の部活内容

機械部は、現在3年生2人、2年生2人、1年生5人の計9人で活動しています。放課後の3時間のほか、朝にも1時間ほど活動を行っており、1年生時には溶接など、ものづくりに関する基本的な技術を先輩から学びながら、各自の技術力を上げていきます。

また、全国のさまざまな場所で開催されるエンジン部門とモーター部門のエコカーレースに参加しており、車両の整備・設計などを3年生が中心となって行っています。

○経験を将来に生かす部活動

機械部では、溶接の技術のほかにも技能五輪を見学に行ったり、インターシップを行うなど、さまざまな経験をすることが出来ます。その中で自分の得意なものや興味がある



ものを見つけることができれば、自分の自信や財産となり、ほかの分野でも自然とやる気が湧いてきます。また、夏休みには5日間の職場体験を行っており、普段の学校生活では経験できない「現場の作業」を味わうことができます。

こういった経験ができることは、今後の進路を考える上でも選択肢が増えるきっかけになると思います。

○市民の皆さんへ

機械をいじったことが全くなかった小林部長のように、経験がなくても、ものづくりの基礎から学び、インターシップを通じて最先端の技術を得ることが出来るのが中野立志館高等学校の機械部だと思います。

また、ほかの部や学校ではあまりない「卒業生など先輩の皆さんが自分たちの経験を教えるにきていただけること」など、市民の皆さんをはじめ多くの方に応援をいただき部活動を行っています。

さまざまなことに挑戦できる機械部なので、いただいたチャンスを生かしながら、皆さんの期待に応えられるように今後も頑張りたいです。

中野市合併10周年記念

広報クイズ



■今月のプレゼント

「サクラランボ狩りペアチケット」
...1組

問題

中野市合併10周年記念事業の2015信州中野環境祭の開催日は？
「●月●日」

クイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、世帯主名を記入の上、今月の広報で参考になった記事、今後知りたい情報などをはがきに書いて、次の宛先までご応募ください。

締め切り 6月22日(月)必着
※当選はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

先月号の答え 麻衣さんが作詞した中野市イメージソングのタイトルは？
答え・・・「空みあげて」

383-8614

(住所記載不要)

中野市庶務課
秘書広報係 行

住所・氏名・年齢・
電話番号・世帯主

市民リレー元気の輪

No.11

松本裕子さん
からのご紹介



○自己紹介

農業をやっており、りんご、ブルーベリー、プラム、米などを栽培しています。50年近く続けて来ましたが、農業は土や自然と触れ合うことができ、季節の移ろいを感じられ、本当に素晴らしい仕事だと思います。

また、若い頃から山登りが趣味で、「まみくとい山の会」という会を仲間と設立し、農作業の合間をみても山登りに出掛けています。

山登りの魅力は、登り切った後の山頂からの眺めの素晴らしさはもちろんのこと、山道で出会う植物や小動物、同じ体験を共有する仲間の存在など、山頂までの過程の部分が感動を何倍にもしてくれるところではないでしょうか。



金井 光正 さん (草間)

また、海外

に行ったときは山登りだけでなく、現地の人とできるだけ交流したいと考えており、4月にネパールの5400呎の峠を越えてきた際にも、山村を訪ねてきました。帰国して2日後にあの大地震が起きたので、支援助物資も届かないであろう山奥の、貧しくも真剣に楽しく生きている人たちのことが気掛かりです。



▲仲間と山登りを楽しむ金井さん

○元気の秘訣

日々ストレス無く農作業をし、たまに好きな山登りをする。これが最大の元気の秘訣でしょうか。最近では、孫たちと一緒に山登りをするのが大きな楽しみみです。

○おらほの自慢

旅行などからの帰路の途中で高社山が見えてくると、「ああ、中野に帰ってきたんだなあ」と感じます。また、新緑の季節に登る高社山は花もきれいで、とても気に入っています。

池田市長の

わくわくレポート

vol. 22



緑眩しく光あふれる豊かな自然を後世に残すために

私が環境問題を意識するようになったのは、ローマクラブが1972年に発表した報告書「成長の限界」であった。人類の成長は人口増加と枯渇する資源、環境破壊により限界に達するとの内容であった。思えば、PM2.5に表象される

るようになった。これらは人間本位の所以であるとも言われる。地球は人間だけのものではないとして、生態系や生物保護に向け活動する人々もいる。そうした中で、私たちができることは一体何か。地球規模の話をもって私たち一人一人の生活に反映させるように理解をすることはなかなかできない。

大気汚染、二酸化炭素濃度の上昇、化石燃料使用によるエネルギー問題、大量消費による都市におけるごみ問題、海洋汚染、生態系の変化、最近ではゲリラ豪雨のような異常気象など、不安を掻き立てる話題は尽きない。二酸化炭素濃度が測定され始められたのは、1958年のことと云われるが、その時の濃度は315ppmで、昨今は400ppmを超える場所も出ている。二酸化炭素濃度は55年で85ppm、27%も増加したことになる。

しかし、緑眩しく光あふれる豊かな自然を後世に残すことは、今を生きる私たちの責務であり、課題である。一人から二人へ、そして地域でと環境に対する思いを共有し、共に行動し、その輪を広げていくことが大切だ。もちろんのこと、科学の進歩により課題解決に向けた技術開発にも期待したいが、生態系を保持し、無駄のない社会システムに向けて、試行錯誤ではあっても、美味しい空気、水、そして土や緑などを維持していく取り組みは継続的にしなければならぬと考える。



私たちが便利で快適な生活を営むために、科学技術の進歩により様々なものが製品開発され、自然を忘れさせるかの様な生活ができる

私たちのふるさと中野市は、豊かな自然に囲まれ、農業をはじめ産業活動が盛んな地域である。恵まれたこの環境を残していくためにも、私自身努力と精進が必要だと考えている。